



平成31年1月30日

管内経済情勢報告

平成31年1月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕


財務省 福岡財務支局 経済調査課

TEL 092-411-9038

FAX 092-452-1318

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復している」








項目	前回 (30年10月判断)	今回 (31年1月判断)	前回比較
総括判断	回復している	回復している	

(注) 31年1月判断は、前回30年10月判断以降、31年1月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、百貨店・スーパー販売額が前年比横ばいとなっているが、コンビニエンスストア販売額、乗用車販売台数、ドラッグストア販売額などが前年を上回るなど、回復している。生産活動は、自動車が海外向けを中心に引き続き好調に推移するなど、緩やかに回復している。雇用情勢は、有効求人倍率が引き続き高水準で推移するなど、改善している。

【各項目の判断】

項目	前回 (30年10月判断)	今回 (31年1月判断)	前回比較
個人消費	回復している	回復している	
生産活動	緩やかに回復している	緩やかに回復している	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	30年度は増加見通し	30年度は増加見込み	
企業収益	30年度は増益見通し	30年度は増益見込み	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響等海外経済の不確実性などに留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復している」

百貨店・スーパー販売額は、暖冬の影響により衣料品等が低調で全体では横ばいとなっているものの、百貨店では化粧品や高額品等が好調を維持しているほか、スーパーでは飲食品が堅調となっている。コンビニエンスストア販売額は、新規出店効果に加え、日配食品、店内調理品が好調なことなどから、前年を上回っている。乗用車販売台数は、小型車が前年を下回っているものの、普通車、軽自動車では前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、新規出店効果に加え、化粧品、医薬品が好調を維持していることなどから、前年を上回っている。家電販売額は、テレビ、パソコンなどは好調に推移しているものの、暖冬の影響により暖房器具が低調なことなどから、前年を下回っている。ホームセンター販売額は、暖冬の影響により暖房器具など季節商品が低調であるものの、DIY用品や園芸用品が好調なことなどから、前年を上回っている。このように、個人消費は回復している。

(主なヒアリング結果)

- 暖冬で青果が相場安となっている状況。鍋物関連の商材が売れていないため、野菜、肉、魚の売れ行きに影響が出ている。(スーパー、中堅企業)
- 10月は紳士・婦人ともに秋物衣料に動きがみられたものの、11月以降は暖冬の影響により、コートやブーツなど冬物衣料の動きが鈍かった。化粧品、宝飾品などは、富裕層やインバウンド客において好調を維持している。(百貨店、大企業)
- 天候や気温、煙草の値上げ等の外部要因があったものの、新規出店を継続している効果もあり、堅調に推移している。暖冬の影響により、おでん、中華まんが低調だったが、日配食品(調理パン、めん類など)、レジ横の揚げ物類などは好調に推移した。(コンビニエンスストア、大企業)
- 新規出店効果に加え、化粧品、医薬品、食料品などが好調を維持している。一方、暖冬の影響でカイロ、ハンドクリーム、風邪薬など季節商品の動きが鈍かった。(ドラッグストア、大企業)

■ 生産活動 「緩やかに回復している」

輸送用機械の自動車は、海外向けを中心に引き続き好調に推移するなど、緩やかに回復している。鉄鋼は、国内外向けの自動車用鋼材や海外向けの軌条が好調なことなどから、高い操業を維持している。電子部品・デバイスは、車載向けを中心に引き続き好調に推移している。造船は、高めの操業を維持しているものの、受注価格は低い状態が続いている。このように、生産活動は緩やかに回復している。

- 海外向けが好調に推移しており、工場はフル操業の状態となっているが、米中貿易摩擦の影響など先行きに留意する必要がある。(自動車メーカー、大企業)
- 昨年の台風の影響や設備トラブルで一部生産に遅延はあるものの、主力製品である自動車向け鋼材やレールが引き続き好調であり、高操業が続いている。特に、自動車向け鋼材に関しては、需要に対して生産能力が不足している。(鉄鋼、大企業)
- 車載向け製品(ハイブリッド車の電子機器制御など)は引き続き堅調に推移している。一方、スマートフォン向け製品は需要が落ち込んでいる。(情報通信機械器具、中堅企業)

■ 雇用情勢 「改善している」

有効求人倍率は、引き続き高水準で推移している。新規求人数は、医療・福祉及び宿泊業・飲食サービス業等で増加している。新規求職者数は前年を上回っている。総じて、雇用情勢は改善している。

- 施設開所に際し、資格を有する正社員の採用に難航。パートについても、賃金を上げ人員確保に努めているところ、採用しても辞めていくため、確保に苦労している。(医療・福祉、中小企業)
- 新規店舗、既存店舗共に人手不足感は一段と深刻化している。募集をかけても応募がない状況であるため、現有人数で対応できるよう、業務の効率化に注力している。(飲食サービス、中小企業)
- 新規求職は、高齢者層で引き続き増加しているほか、小規模事業所の事業廃止による離職者の増加などにより、前年同月を上回っている。特にパート求職者の増加が継続しているところ、求人企業には、勤務時間短縮など就業環境を緩和することが求められている。有効求人倍率は依然として高水準で推移しており、当面現在の情勢が継続する見込み。(労働局)

■ **設備投資** 「30年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年10-12月期

- 製造業では、自動車・同附属品等で減少見込みとなっているものの、非鉄金属、窯業・土石製品等で増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、金融、保険等で減少見込みとなっているものの、運輸、郵便、小売等で増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 半導体用製品の増産にかかる工場への設備投資のほか、高精度化に伴う投資を実施する予定。(非鉄金属、大企業)
- シニア向けマンションの建設などの成長投資に加え、連続立体交差事業などの安全投資により増加見込み。(運輸、大企業)

■ **企業収益** 「30年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年10-12月期

- 製造業では、化学工業等で減益見込みとなっているものの、自動車・同附属品、その他の輸送用機械器具等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信等で減益見込みとなっているものの、小売、建設等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅が増加しているものの、持家、貸家及び給与住宅が減少していることから、前年を下回っている。




■ **輸出** 「前年を下回っている」

- 輸出(円ベース)は、前年を下回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(30年10~12月期)の景況判断BSIで見ると、30年10~12月期は、「上昇」超に転じている。先行きについては、31年1~3月期は、引き続き「上昇」超の見通しとなっている。

3. 管内各県の総括判断

	前 回 (30年10月判断)	今 回 (31年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	回復している	回復している		個人消費は回復しているほか、生産活動は緩やかに回復しており、雇用情勢は改善している。
佐賀県	緩やかに回復しつつある	回復しつつある		個人消費は緩やかに回復しつつあるほか、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢は改善している。
長崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直しつつあるほか、生産活動は緩やかに持ち直しており、雇用情勢は改善している。